

まっちゃんぐ

街 ing いばらき NEWS

No.264

2025年

2月号

(毎月25日発行)

巻頭言

大阪万博

杉山英俊

1970年、「人類の進歩と調和」をテーマに大阪で開催された万博。多くの企業・建築家・芸術家によるパビリオン建設や映像・音響などが展示されました。動く歩道、モノレール、リニアモーターカー、電動自転車、電気自動車、テレビ電話、携帯電話、缶コーヒー、ファミリーレストラン、ケンタッキーフライドチキンなど、現代の社会で普通に使っている製品やサービスが初めて登場したのもこの万博です。いまでも時々万博記念館に行くことがあるのですが、あの時代にこれだけのものが一気に出てきた事に驚きを覚えます。

当時はテーマパークもショッピングモールもなく、ニュータウンやマンションもまだまだ一般的ではありませんでした。昔ながらの下町の、昔ながらの長屋に住んで、ようやく普及したカラーテレビで見るSFの世界や外国の文化に興味津津だった10歳の私は、体験した事のない未来のデザインや技術、初めて見るほんものの外国人に、子どもながらドキドキワクワクした事を55年たった今もしっかりと覚えています。

さて、間もなく大阪で2回目となる万博が開催されますが、今回のテーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」で、150ほどのパビリオンや様々なイベントを通じて、ロボットやバーチャルリアリティ、先端医療などの未来技術と、アニメ、音楽、芸術や世界各地の文化などが紹介されるとのこと。しかしながら現代では、身のまわりに常に新しい技術やデザインがあり、世界中の情報も瞬時に調べる事が出来ます。様々なテーマパークなどで、SFやアニメの世界、また、未来のみならず過去の町並も体験する事が可能で、55年前の万博のような、世界観が変わるような衝撃を味わう事は難しいのではないのでしょうか。前売りチケットが思うように売れないのもそう言う所が原因かもしれませんね。

運営側は、「前売りが伸びないのはよくあること。一度来場した人達の口コミや、マスコミでの展示内容の情報発信などで、段々と来場者が増えればいい」と言っているようですが、やはり大事なものは内容。他のテーマパークと一線を画したような明確なコンセプトやゆるぎないポリシーが感じなければ、なかなか来場者の心をドキドキワクワクさせるのは難しいでしょう。

とは言うものの、そこは新しいもの好きの私。一度は行ってみたいと思うのも本音です。私の想像を吹き飛ばすような素晴らしい展示が待っているのか、それとも、「あ〜、やっぱり」と思うのか。それは行ってからの楽しみ。できれば、ただの技術自慢ではなく、人間の心を豊かにし、50年後に、「あの万博を機会に世の中が良くなった」と言われるような内容であることを願います。もちろん私は50年後までこの世にいませんので、検証する事はできませんが・・・



“近代建築”の保全と再生

技 彰

先人たちが情熱を注いで造ってきた建築を、真に誇りと愛着を持って長く使い続けるためには、日常的な維持管理や定期的な修復などは必要不可欠であり、時には用途変更による抜本的再生なども行われてきた。

しかし、先の敗戦以降、生活水準が向上するに連れて「スクラップ・アンド・ビルド」の風潮が日常化し、古い建物を大切に使うという先人の良識が通用しない時代を私たちは迎えるに至った。建物の資産としての価値は建設費で換算されるだけで、古くなるほどその価値が下がってしまうのである。

これは、大都市の人口集中化などにより、土地が建設費を遥かに凌ぐ価値を持つ時代になったことによる。未だその建物が十分耐用年限内だとしても、より大きく造り替えれば、土地有効利用を促進することになり、建設費などの初期投資を考慮しても、長期的には収益が増すことになる。古くて使い勝手が悪ければ猶更であり、例え歴史的・文化的価値があったとしても、目先の利潤追求に走るのが「人間の性」であり、また、「資本主義の原理」なのである。

昨今、こうした目先の利潤を追求しつつも、遅れ馳せながら「近代化遺産」保存に目覚め、“近代建築”が有する固有の価値を再発見し、保全・再生する傾向が顕著にみられるようになった。そのような場合も、現状保全は極めて稀で、＜復元＞、＜増築＞、＜改築＞、＜修復＞、＜移築＞等などの多様な手法が試みられている。

＜復元＞

既に消滅している建築（部分を含む）、または、既存建築物を取り壊して元の場所に新築・復元した事例で、一般には“外観保存”・“景観保存”などと呼ばれる。

Ex. 神戸 居留地 127 番館・兵庫県公館・東京駅・神奈川県立博物館・三菱一号館・みずほ銀行京都中央支店など

＜増築＞

既存建築物全体の床面積を増やした事例。都市部の近代建築は現行の容積率に十分ゆとりを残していることから、残地を利用した増築や、既存部分の一部を壊してでも上部の高層化が図られる。

Ex. 海岸ビル・みずほ銀行京都中央支店・新風館・東京中央郵便局など

また、日本では、外壁全面ではなく窓・柱などの部位だけを取り込んで建てられた場合が多く、記念性の高い中央の正面玄関のみの場合は、設計業界の隠語で“**襷保存**”。外観（外壁）の腰部のみの場合は、“**腰巻保存**”と呼んでいる。

Ex. 神戸地方裁判所・三井住友銀行京都支店・三菱東京 UFJ 銀行・大阪中央郵便局など

＜改築＞

既存建築物の全体容積を変えないで、主に内装や用途を変更する。内外部分の残存状態によって多くの多様性が想定され、内外共主要部分を残す“**部分保存**”から、幾面かの外壁を残して内部の全てを変える“**外壁保存**”までこの範疇に含まれる。外壁も正面 1 面だけの場合は“**正面保存**”、建物正面の間だけ残す場合は“**一間保存**”の名称が用いられている。

Ex. 京都中京郵便局・日本生命京都三条ビル旧棟・SACRA・1928 ビルなど

＜修復＞

文化財保存で用いられる一般的手法で、既存建築物の内外部分を良好な状態に保つための補修である。改変された部位の復元、目立たない方法による耐震補強なども含まれ、“**全面保存**”・“**文化財保存**”などと呼ばれる。

Ex. 京都文化博物館別館（重文）・京都市役所本館など

＜移築＞

建築物を、別の敷地、同一敷地内に移転保存する。JR「奈良」駅舎や明治村へ移設された旧帝国ホテルロビー部分などは、中央部分だけの保存なので左右の手足を腕がれた達磨が連想させられ、“**達磨保存**”と呼ばれている。

Ex. 旧帝国ホテルロビー・旧 JR 奈良駅舎など

※ “**襷保存**”・“**腰巻保存**”・“**達磨保存**”などは、名称からも分かるように、“近代建築”を保全・再生するための日本独自の便宜な手法です。欧米人には、極めて奇妙な光景に映ることでしょう。永年建築設計に携わってきた身としては、なんとも恥ずかしい限りです。こんな“**珍奇な建築**”が公に存在（公共建築にも）するなんて、日本は果たして真に先進的“**ものづくり大国**”といえるのでしょうか？こんな無様な文化財の保存・保全が罷り通るなんて、日本って本当に不思議な国ですよ！

旧神戸居留地の“レトロ建築”



神戸市立博物館（旧横浜正金銀行神戸支店）



旧居留地十五番館（重要文化財）



神港ビル



チャータードビル（旧チャータードバンク神戸支店）



商船三井ビルディング（旧大阪商船神戸支店）



海岸ビル（旧三井物産神戸支店）



禪保存（三井住友銀行京都支店）



腰巻保存（神戸地方裁判所）



達磨保存（旧 JR 奈良駅）

洛西・大原野で、桜花の古社寺巡り！

令和7年4月4日(金)

水先案内人:牧 彰(会員)

京都盆地の三方を囲む山々を、東山・北山・西山と呼び慣わされている。古来、西山は都人の隠棲の地とされ、今なお閑静な趣を残している。その山裾にかけて美しい竹林が広がり、由緒ある古社寺が随所に点在する。

姿の優しい小塩山麓・大原野には、緑滴る竹林、群生する柿の木、菜の花畑に芒の原と、いかにも山里らしい長閑な風景が広がる。

なかでも、大原野神社は、都会の喧騒から離れた深い緑に包まれ、一千二百年ほどの歴史を秘めて厳かに鎮座している。

平安京遷都以来、大原野神社は皇城镇護の社として崇められ、藤原氏出身の皇族・貴族たちは、競って参詣してきた。その結果、華やかな貴族文化がこの地に持ち込まれ、大原野の地は美しい自然を背景にした王朝芸術の格好の舞台になる。

特に、寛弘2年(1005)の一条天皇中宮彰子の行啓は名高く、藤原道長を初め紫式部らも供奉し、その行列の絢爛さは衆目を集めたといわれている。



大原野神社の千眼桜と神鹿(雄)

■西迎寺

大原野神社に向かう手前にあり、樹齢200年の枝垂れ桜が、鐘楼前に鎮座している。あまり知られていないが、穴場の名桜である。先ずは最初に立ち寄りたい。

■正法寺

桜花の隠れた名所として評判の寺院。遙か彼方に東山三十六峰を望む借景式庭園の枝垂れ桜の大樹は、苔や白砂を薄紅色のベールで覆う。境内に処を得て植えられた紅枝垂れ桜が、春を謳歌するように咲き誇る。

■大原野神社

社殿は、長岡京遷都の際、奈良・春日大社から勧請する。鯉沢池の畔に、山桜・染井吉野・そして珍種の千眼桜が咲き、池面に春風に舞い散った花弁を浮かべている。

■勝持寺・花の寺

花僧の西行がこの寺で出家したと伝え、所縁の西行桜(現在は三代目)がある。西行桜は鐘樓の傍に天蓋さながらに枝垂れ咲き、山内は100本の桜花が繚乱する。

■願徳寺(オプション)

本尊の如意輪観世音菩薩半跏像(この地域で唯一の国宝)は、中国・唐様式の影響を受けた平安初期の一本造りの傑作。尊顔の美しさは、一見の価値あり。

◇参集地:JR「向日町」駅10時 雨天決行 歩行距離2~3km

◇順路:「向日町」10:20⇒南春日町~西迎寺~正法寺~大原野神社(昼食)~勝持寺~願徳寺~南春日町⇒阪急「東向日町」・JR「向日町」

◇拝観料:正法寺300円 勝持寺500円 願徳寺400円

◇昼の宴:大原野神社境内・春日乃茶屋(蕎麦切り こごろ) 11:00~15:00

◇定員:12名程度 申込締切り 2月8日(土)

◇申込先:「街 ing いばらき」代表・阪田 浩(080-1436-9881)

Tel&Fax/072-627-3480 E-mailibarakisakata@crux.ocn.ne.jp

※本会行事は、自由参加です。不測の事故・傷害などは、自己責任でご対応ください。

プラハ カレル橋

中 村 幸 子

昨年の茨木市の美術展に出品しました絵は、全市が世界遺産に登録されているチェコのプラハを5年前の冬に訪れたときの風景です。

最初にハンガリーのブダペストへ行きました。ブダペストカードを購入し、日中は市内や周辺を観光し、夜には美しいクリスマスの飾りつけや屋外スケートリンクを見たりして、温かいワインを味わいました。

プラハへは、初めて乗ることになったコンパートメントの旅客車で、ブタペストからブラチスラバを通り



北西に向かいました。雪が降り出し日差しはなく暗い中を、半日がかりでプラハに着きました。翌日はカレル橋を歩き壮麗で巨大なプラハ城を見て、小型船に乗り日本語のアナウンスを聞きながらバルダバ川（ドイツ語表記ではモルダウ川）を遊覧しました。プラハには人形が動く天文時計があります。迷いながらも人の流れに従って見に行くことができました。

絵には王宮・教会、バルダバ川と観光船、川に架かるカレル橋を描いています。カレル橋には両側に30体の聖人像が設置されています。幅の広い長い大きな橋ですから訪れる人も多く、欄干に並ぶカトリック教の守護聖人の彫像を鑑賞したり、似顔絵描きや大道芸人のパフォーマンスが楽しめます。下を流れるバルダバ川には観光船が往来しています。中学生の時に演奏したスメタナの交響詩モルダウ（チェコ語では「バルダバ」）などを、思いうかべながら王宮に向かってゆっくり歩きました。当時は、チェコはチェコスロバキアという国名でした。それが1993年に2つの国に分離しました。争いはなく話し合いで2つの国に分かれ、それぞれに首都があります。チェコの方はプラハでスロバキアは、ブラチスラバです。この国の歴史もさることながら、私の記憶に強烈に残っているのは、「プラハの春」といわれている1968年の春から夏にかけての、民主化・自由化運動です。広いヴ



ァーツラフ広場の通りを、老いも若きも女性も男性も、喜びにあふれた表情で行進している姿がテレビで報道されました。人々のその姿が忘れられません。

5年も前にこのような東欧の旅をしていたことを、あらためて懐かしく思い出しております。

（注）スメタナ作曲「モルダウ」は ドイツ語、チェコ語では「バルダバ」



アンチエイジング対策

杉田 宗三

私ごとで恐縮ですが、スポーツジム通いを始めてから既に 30 年以上になります。契機は東京単身赴任です。職場も住まいも都心にあり、その上公共交通網が完備されている中で脚力が急速に落ちて、ある日突然に横断歩道を 1 回の信号で渡り切れず道路中央で次の信号を待つ事態となり、あわてて会社指定の病院で総合的に検査を受けました。その結果は「異状なし」と告げられ、訓練しかないと気づきジム通いを始めました。

84 歳の今もゴルフを続けていますが、ジム通いをしている人は他の人より年齢による飛距離ダウンが少ないと実感しています。アンチエイジング対策にもなっているようです。まとめとして、ご参考までに元中央不動産特別顧問 今津真作氏の表題記事を紹介します。

~~~~~

標準的な老化防止対策を行った方が良い。医師の奨める投薬や適度な運動により基礎体力の増強を図り自己再生を辛抱強く行うことが必要です。最終的には自らの免疫力をアップして自力救済していくことが王道です。

免疫システムを若返らせる方法について、生物老年学者アンドリュー・スティール博士は次のように提案しています。

- ① 禁煙（煙草は推定余命を十年縮める）
- ② 痛飲、過食を避ける。糖分や脂肪の多い食べ物、また偏食も良くない。加工食品の制限、バランスの良い食事に努める。
- ③ 適度の運動は必要。無理に量をこなす必要はない。
- ④ 睡眠時間は 1 日 7 ～ 8 時間とし、以下でも以上でも死亡リスクは上昇する。
- ⑤ 予防接種を受ける。高齢者はインフルエンザの予防接種は充分価値がある。手洗い励行。
- ⑥ 歯を大切にする。1 日 2 回、フッ素入り歯磨きを使用する。虫歯、歯周病に注意。
- ⑦ 日焼け止めを塗る。肌の老化は日光に密接に関係する。
- ⑧ 心拍数、血圧を観察する。
- ⑨ サプリメントにわずらわされない。
- ⑩ 長寿薬にわずらわされない。



大体以上のような提案です。それほど突飛なものとは思えませんが、それぞれ習慣的に実行することが大切なようです。

~~~~~

魔方陣の難問証明着手 30 年・計算 2 年

石倉徹也 2024 年 9 月 17 日

魔方陣とは

1992 年、山梨大工学部の
助手だった美濃英俊さん
(62) は、研究室の教授から
ある雑誌を見せられた。

難解な数学パズル「魔方陣」。タテ・ヨコ5マス、計25のマス目に、1~25の数

をすべての列の和が同じ数になる並べ方は全部で、2 億 7530 万 5224 通りある。

米国の数学者が大型計算機を約 100 時間走らせ、数え上げていた。「こんな計算できると思う？ とてもできそうにないんだけど……」。教授はげげんそうな顔で聞いてきた。

コンピューター科学が専門の美濃さんは試してみた。数カ月かけてプログラムを書き、学内のコンピューターで24時間計算させたところ、「答えがぴったんこ正解だった」。達成感を感じた。

次の壁は、タテ・ヨコ 6 マスの 6 次の魔方陣の総数だが、桁違いの多さから攻略不可能と恐れられていた。でも、いつか解かれるかもしれない。当時 30 歳。「誰かが解いたというニュースを聞くのも嫌だな」。30 年に及ぶ挑戦が始まった。

そして成功した。

(続きはまたいつか?)



次回のイベント

街歩き 2月8日(土) 摂津富田周辺散策 阪急総持寺駅 13時00分集合

—— 次回『街ing いばらき』例会のご案内 ——

日 時： 令和7年3月6日(木) 14:00～16:00 《2月の例会はありません》

場 所： 川本本店 茨木市上泉町 6-29

- 議 題： 1. 2月8日(土)富田の酒蔵見学の振り返り
2. 4月4日(金)大原野(おおはらの)のお花見
3. 5月27日(火)の高砂散策 他

『街ing いばらき』とは？

茨木のまちづくりを考える市民グループです。といってもあまり硬いことではなく、月一回の例会や年5回程度の街歩きを行っています。

参加資格は問いません。入会に関心のある方は、お問い合わせください。

とりあえずのご見学や、イベントの単発参加も歓迎します。

入会金 1,000 円 会費 年間 2,000 円(一か月 170 円)



« 編集後記 »

- 2025年のビッグイベントは大阪万博の開催。4月13日(日)に開幕します。1ページに杉山さんからの原稿を掲載しています。次回の万博は50年後とも。話のタネに1回は行ってみましょうか
- 次回の街ingの行事は大原野のお花見です。4ページに案内を掲載しています。申し込み締め切りは2月8日(土)です。自然が残る地域で桜を楽しめます。ぜひご参加を。
- 今年も安全に気をつけて、楽しく活動していきましょう。

« 編集・発行 »

阪田 浩 〒567-0881 茨木市上中条一丁目 10-22

Tel/Fax 072-627-3480 e-mail: ibarakisakata@crux.ocn.ne.jp

街ing ホームページ : <http://wwa.machiing-ibaraki.com/>

ホームページは杉田さんが作成されています。ときどきはのぞいてみてください。

2025年1月現在での訪問者は10,400 <前月比30の増加> となっています。

